

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



劇団〈夢創〉 ゆめつくり

メモリー ～サトばあちゃん86歳の忘れもの～

令和元年12月21日、22日に文化会館にて、劇団夢創によるミュージカル「メモリー」が公演された。全3回公演で約1200人が来場した。

劇団夢創は、小学1年生から61歳まで現在23人が所属する、平成11年に本市で設立された市民劇団。当初は市文化事業としてスタートしたが、平成21年からは自立し、根付いた演劇文化を絶やさないように、との思いで活動を行っている。毎年多彩なテーマを取り上げており、設立20周年を迎えた今年には「メモリー（記憶）」を掲げ、団員は5月から練習に打ち込んだ。

主人公・環奈と家族は、友だちや地域の人たちに協力してもらいながら、認知症のため突然いなくなったサトばあちゃんを探すことになる。その中で、「祠に行きつき、サトばあちゃんの記憶に迷い込むという、不思議な体験をする。どんな記憶が残っていたのか？戦争を経験し、サトばあちゃんが今なお悔いている過去の「忘れもの」とは？戦争を知らない世



本番が迫る中、時間を惜しみながらの練習



代がその記憶をたどることで、幼少期の体験が人の心にどう影響したのかを皆で考えていく。

今回の劇中歌19曲は音楽家の玉麻尚一さんが作曲した新作で、市内在住の絵本作家の羽尻利門さんが描いた阿南の絵が背景に使用されている。また、桃太郎や西遊記、進駐軍なども物語に盛り込み、笑いあり涙ありの喜劇として構成された。来場者は、「素晴らしい内容で、しっかりと細部まで作り込まれていた。一層深刻化するだろう問題（超高齢社会、認知症など）が取り上げられており、色々と考えさせられた」と感心したようす。

劇団の指導を16年務める、演出家の遠藤吉博さんは、「このミュージカルが子どもと高齢者の在り方やつながりについて考えるきっかけになればよい。また、戦争の悲劇を子どもたちにも知ってもらいたい」と思いを語った。

劇団員募集中!

劇団夢創の活動で、表現する力を育みませんか。
【問い合わせ先】劇団夢創事務局 ☎22-0268(8)へ